



川北町の概要

川北町ってどんなまち？

川北町は、加賀平野のほぼ中央部に位置し、霊峰白山を源とする手取川の右岸に沿って、東西に細長く拓かれた町です。手取川のもたらす豊富な水と肥沃な土壌により、県内有数の穀倉地帯として発展してきましたが、近年は企業誘致にも積極的に取り組み、農・工・商のバランスのとれた町づくりを進めています。

明治40年8月に、中島村、草深村、砂川村の3つの村が合併し、川北村が誕生。昭和55年4月に町制を施行し「川北町」となり、現在に至っています。

公共料金の低廉化や他市町に先駆けて取り入れてきた手厚い福祉施策、子育て支援策など町独自の施策が呼び水となり、町の人口は、町制施行時の4,339人から現在は約6,300人と飛躍的に増加し、町は活気に満ち溢れています。



人口: 6,261人



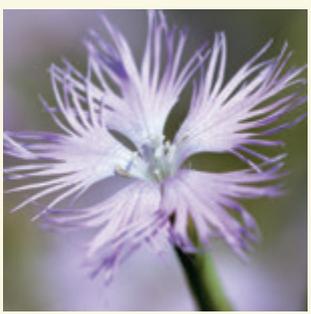
世帯数: 1,949世帯



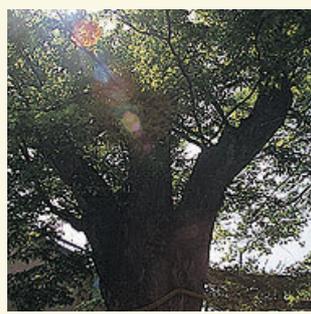
面積: 14.64km²

(平成31年1月1日現在)

町の花
「カワラナデシコ」



町の木
「ケヤキ」



町の鳥
「ヒバリ」





観光

川北まつり ~手取の火まつり~

全町民が参加できる祭りをつくろう。そんな思いから、「手取りの火まつり(川北まつり)」は、昭和61年からはじまりました。

夏の夜空を赤く焦がす、日本最大級の高さ46メートルの大かがり火をバックに、手取川の河川敷に設けられた特設ステージでは、豊作の祈りを込めた「虫送り太鼓」や先人の遺徳と御霊を慰める「送り火」、地域おこしの一環として生まれた「手取穴龍太鼓」などが次々と披露されます。飛び散る汗、集約するエネルギー。全町民の熱気が一丸となって、祭りは最高潮を迎え、北陸最大級の2万発の花火が夜空を彩ります。



川北町ふれあい健康センター

1階が「川北温泉ふれあいの湯」、2階が「川北町立図書館」の複合施設。温泉は良質で湯量豊富。ひのき風呂、サウナなどがあり、入浴料が大人200円(平成31年3月現在)と低料金で利用できます。



わくわく手づくりファーム川北

レストランと地元の新鮮な農作物や川北町の特産品を販売している産直物産館があります。

地ビール

地元産の六条麦と白山の伏流水にこだわって開発され、味わいが大変良く、評判も上々。海外にも販路を拓けています。



加賀雁皮紙

天明3(1783)年から伝わる伝統の手漉き和紙。なめらかな光沢と防虫・耐久性が特徴。川北町の小中学校の卒業証書に使われ、帽子やバックなどの製品も開発。

特産品



いちじく

町を代表する特産品。ジャムやソースなどの加工品があり、その他、ご当地グルメ「かわきた味噌豚どん」やご当地スイーツ「いちじく太鼓」にも使われ、人気を集めています。